



アズビルは12月に創業120周年を迎える。ビル空調や工場の生産設備、水道・ガスなどのライフラインを計画・制御して社会を支え、国内外で事業展開している。120周年への思いや環境認識、今後の経営方針などについて山本清博社長に聞いた。

パーパス策定
「創業120周年を前にパーパスや目指す姿を策定したほか、本社を移転した。新しいオフィスでは、経営の透明性や風通しの良さを体現することを意識した。」

「社内でも議論を重ね、不可能を可能にし、技術で顧客の現場に新たな価値を創造していくことを示した。新しいオフィスでは、経営の透明性や風通しの良さを体現することを意識した。」「モノを作り続けることに挑戦」



アズビル社長 山本 清博 氏

「半導体やデータセンタ(DC)関連の変化の激しさへの対応に注力している。当社は半導体製造装置のチャンバー内で使われるサファイア隔膜真空計やDCの空調設備の監視・制御などで関わり、変動が極端に大きい他分野に影響が出かねない」

技術で顧客現場に新たな価値創造



モノづくり産業について、人の力とデジタルの力を併せ持つ日本は有利な立場にいる。製造業は面白い...と話す山本さん

性は高い。一方、当社の製する品を長く使ってもらって貢献する。顧客もいる。こうした製品にも対応していくことが顧客から見た価値になる。製品の改良と作り続けることが大切だ」

モノを作り続けることに挑戦

攻めのDX戦略推進 AI最大限活用

「2018年にシンガポールに東南アジア戦略企画推進室を設置した。ビル空調を制御するビルデイングオートメーション(BA)事業で実績が出てきており、同国で存在感を高めている。実績に加えて省エネ効果を感じてもらえたこと、他国でビルを建設する際にもお声がけいただいた。攻めとしてはビル設備の運用データやクラウドを広く活用し、新たな価値を提供する仕組みを強化する。AI(人工知能)を最大限活用していく」

「高品質なものを適切なコストで作ってきただけで実績が伸びない。これまで人手に頼ってきた工程を仕組みやロボット、AIで補えるようにしなければ競争力となり、海外でも使ってもらえるはずだ。人の力とデジタルの力を併せ持つ日本は有利な立場にいる。製造業は面白い。若い人にもぜひ関心を持ってもらいたい」

海外で出展

「100億円を目指す中、注力していることは、これまで個別受注の単体設備と、それをベースに顧客ごとにカスタム設計した自動化ラインを展開してきた。今後は、受注生産に加えて汎用機のラインアップ拡大や海外展開の強化、AIを活用したメンテナンス支援サービスの開発により成長していく。個別受注型メーカーから、標準化、自動化、AI、海外展開を組み合わせたメーカーへ進化させる」



吉野機械製作所社長 吉野 友章 氏

新成長へ「100億企業宣言」

汎用機ラインアップ拡大



「海外メーカーとコラボしたい」

AI活用メンテ支援サービス開発

「オープンイノベーションに積極的です。」「品質と納期対応力」

「最終的に目指す姿は、品質と納期対応力をさらに高めるため、溶接などには自社の力だけでは難しい。スタートアップや大学、研究機関などオープンイノベーションを推進する体制を整える。自社の技術力を高め、熟練工の知見をデジタル化して次世代に継承していく。これらを通じて、品質・コストで貢献する。千葉から世界へ製造業の未来を動かす。現場、データ、AI、エネルギーをつなげた次世代製造業プラットフォームに進化したい」

超モノづくりへの挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

モノづくり日本会議の事業

- グローバル競争力強化関連事業
・モノづくり力徹底強化検討会 ・人材育成関連事業 ・長寿企業イノベーション勉強会
・ビジネスモデル価値創造研究会 ・新モビリティ研究会 ・企業価値革新検討会
- 新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業
・新産業技術促進検討会 ・ロボット研究会 ・AI研究会
- その他の事業コンテンツ
・顕彰事業 ④モノづくり部品大賞 ・モノづくり推進シンポジウム ・特別講演会
・地区別研究会 ・交流・マッチング事業 ・会員向け調査レポート

